



## 中学校最後の2学期スタート！



皆さん、どんな夏休みでしたか？ 宿題や受験勉強をめっちゃくちゃ頑張った人、部活動をやりきった人、田舎に帰ったり旅行したり大阪とは違った空気を吸い気分転換した人など…、人それぞれ長い夏休みならではの有意義な体験をしたことでしょう。

いよいよ2学期のスタートです。2学期は「体育大会」や「文化祭」など行事がたくさんあります。そして、中学校の行事がこうして一つひとつ終わりを告げていきます。それぞれが、悔いなく思い出に残るような行事にしていってほしいと思います。

さあ！ 中学校最後の「花道」を作っていこうではありませんか！！

一人ひとりが目標をもってそれに向か

って努力し、それぞれの可能性を十分発揮できるようにしていってください。



## 進路決定をする2学期 !!

2学期は皆さんの「進路を具体的に決める」というとても重要な時期になります。もうすでにいくつかの体験入学などに参加したり先輩の話を聞いたり、自分の進路をイメージしている人もいるかもしれません。9月19日（土）には、各高校から先生をお招きして出前授業が行われます。高校の雰囲気を経験しながらよく考え、11月12月の進路懇談では、具体的な進路先について相談できるようにしておきましょう。

また本日、**奨学金の案内リーフレット**を配布

しました。今から進路のことをよく考え、保護者の人としっかり相談することは大切なことです。さまざまな情報をキャッチして進路決定に向けがんばってください。



HPも見てね♡



## 短縮授業の予定

【 3 年 1 組 】

日	26日(水)		27日(木)		28日(金)		31日(月)		9/1日(火)
グループ	A	B	A	B	A	B	A	B	第2回 実力テスト 英国理社数
1限	理 科		数	英	保 体		美	英	
2限	社 会		家	美	数	英	社 会		
3限	英	技	技	家	理 科		水泳大会		
4限	身体測定		国 語		英	数			

【 3 年 2 組 】

日	26日(水)		27日(木)		28日(金)		31日(月)		9/1日(火)
グループ	A	B	A	B	A	B	A	B	第2回 実力テスト 英国理社数
1限	国 語		理 科		社 会		理 科		
2限	音 楽		英	数	保 体		英	家	
3限	数学 $\alpha\beta\gamma$		社 会		数	英	水泳大会		
4限	身体測定		技	英	国 語				



# 8・6 戦後70年平和学習学校登校日…3年平和学習活動報告

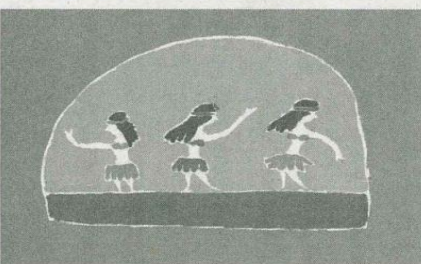
これまで平和学習として「ヒロシマ」について学習してきたことを8月6日の登校日に活動報告（ヒロシマに落とされた原爆、平和記念公園での記念式典や資料館など六つの項目）を発表しました。代表で発表してくれた班の皆さん、ありがとうございました。



## 新・心のサプリー 海原純子

### 8月の記憶

「ヒロシマ」を語り継ぐことの大切さを再認識したコラムでした。戦後70年、私たちにできることは、忘れないということではないでしょうか。



戦争イラスト 北村人

東日本大震災から4年半になるとうとしている。被災地から遠い土地に住んでいる方には、震災の記憶が薄れつつあるかもしれない。しかし、思わぬところで震災の傷に出会うことがしばしばある。当時、関西に住んでいた小学生の女の子が、津波の映像をみて不安定になり、「みんな死なないで」と泣き出し、その後強迫神経症で悩んでいるということもある。直接的な震災の被害だけでなく、さまざまな年代の人々に災害を与える影響は大きく、心が受けた傷は時を経て癒やすのが難しいことがある。

さて戦後70年だが、戦争が残した傷もなおさまざまな人々の中に残っている。先日、広島大が被爆体験者にアンケート調査をしたところ、今でも時々思い出すという方としばしば思い出すと答えた方が7割以上で、中にはいまだに魚や肉の焼き物で遺体を連想し、食事ができなくなるなどがあるという方もいた。70年、心に残した傷の深さと大きさに、言葉がなくなる。私の父は、広島で救済活動のボランティアをして被爆し、その後免疫不全を起こして重症の

結核に罹患し、生死の境をさまよった。たまたま疎開先へ向かっている途中の被爆だったのだ。住民票がないため被爆手帳がもらえなかったという。1年間の治療後、命はとりとめたが片肺は石灰化し、その後は大好きだったスポーツができなくなった。父の口から無念さをきいたことはなかったが、それを心の中に閉じこめたままになってたことを思うと胸が痛い。広島がその後の父の人生と価値観を一変させたことはいまでもない。また、それは私の人生にも間違いなく影響を与えている。私は広島の話をおだん周里にはしてこなかった。ただ、今年は違う。社会の流れの変化がそうさせるのだ。今年8月6日、フェイスブックに父の話を書き、すべての人に平和がきますように、と記した。すると、長崎出身の同僚のドクターから、伯父さんが原爆で亡くなり、祖父母がボランティアをしてその後うつ状態に陥ったとメールが来た。先輩で東京にお住まいのドクターの親せきの方も広島で被爆したということも、やはりフェイスブックで知った。思わぬところでさまざまな人たちに、広島が影響を与えていることにあらためて気づいた。天災も人災も戦争も、人の心に大きな傷を残す。どんなに医療が進歩しても、その傷を完全に癒やすことはできないだろう。年月が心の傷を癒やすというのとは正しくはない。一見治ったように、何かの拍子に思い出したりする。そして、災害も戦争も予想もつかないほどさまざまな人々の心に影響を残す。これから生まれてくる子供たちの心にも、その影響は及ぶのだ。8月も終わろうとしている。今一度平和を願う夏だ。

(日本医大特任教授)